

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立早良高等学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ、Ⅴ 】
2 実施対象者	全学年スポーツコミュニケーションコース 60名 (男子55名、女子5名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (スポーツコミュニケーションコース実習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	①国際スポーツイベントに主体的に参加する意欲・態度を養う。 ②スポーツを通じた国際交流や障がい者スポーツに関する知識・理解を深める。
5 取組内容	(1) 大会観戦に向けた事前学習 ①日時：令和元年11月20日(水) 14:35~15:25 ②場所：3年1組、2年1組、1年1組教室 ③内容 ・車いすバスケットボールのルールや歴史に関する説明 ・「北九州チャンピオンズカップ国際車いすバスケットボール大会」に関する説明 ・障がい者スポーツを観戦するにあたって、どのような視点が必要か考える活動 (2) 国際車いすバスケットボール大会の観戦 ①日時：令和元年11月22日(金) 10:00~15:00 ②場所：北九州市立総合体育館 ③内容 ・総合開会式(※写真1) ・小学生車いすバスケットボール大会決勝戦(※写真2) ・「北九州チャンピオンズカップ国際車いすバスケットボール大会」オーストラリア 対 ドイツ(※写真3)

【写真1】



【写真2】



【写真3】



	<p>【3】大会観戦を終えての事後指導</p> <p>①日時：令和元年11月25日（月）15：40～16：00</p> <p>②場所：3年1組、2年1組、1年1組教室</p> <p>③内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会観戦の振り返り ・振り返りシートへの感想記入 ★感想記入の観点 ア. 国際車いすバスケットボール大会の観戦を通して、感じたことや考えたこと イ. 国際スポーツや障がい者スポーツの視点から学んだこと
<p>6 主な成果</p>	<p>①障がい者スポーツの競技性の高さに気付くことができた</p> <p>観戦前の生徒たちは「車いすバスケットボール」と聞き、「障がいのある人がするスポーツ」というイメージを強く持っており、観戦することに対してそこまで楽しみにしていない様子であった。しかし、実際に国際大会を観戦し、想像以上に激しいプレイや高い技術を目の当たりにしたことで、観戦中の生徒からは「すごい」「障がいがあるとは思えない」などの言葉が飛び交っていた。振り返りシートにも、ほとんどの生徒が競技性の高さに着目した記述をしており、「障がい者スポーツ = 競技性が低い」というイメージを払拭できたのは大きな成果である。</p> <p>②スポーツを「支える」視点を獲得できた</p> <p>振り返りシートの記述をみると、車いすバスケットボールの競技そのものや選手に関する記述はもちろん、国際大会の運営に目を向けた記述も確認することができた。今回の大会観戦がスポーツへの新たな視点の獲得につながり、「支える」立場からもスポーツに関わろうとする生徒の姿をみることができた。</p> <p>以下、ワークシートの記述の一部抜粋である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツも活発に国際大会が行われていることを知り、障がい者でもスポーツができる環境を整えている運営の方々も素晴らしいと思いました。私もスポーツに関わる人間として、今後そういった活動に積極的に参加できたらいいと思いました。 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>①生徒へ大会観戦の視点を与える</p> <p>本実践が単なる大会観戦で終わらないようにするため、事前・事後の活動において、観戦にあたって大切にしてもらいたい視点を明示した。具体的には、「障がい者スポーツである」という視点と「国際スポーツ大会である」という視点の2つである。視点を与えたことによって、特に事後指導で取り組んだ振り返りシートには、大会観戦の感想だけでなく、自らの気づきや疑問に対して深く考えようとする記述をしている生徒がほとんどであった。</p>

8 主な課題等	<p>①バスケットボールという競技そのものへの興味や理解が低い生徒への対応</p> <p>本実践は本校スポーツコミュニケーションコースの生徒が対象であったため、人数としてはごくわずかであったが、なかには車いすバスケットボール以前にバスケットボールのルールさえほとんど分かっていない生徒もいた。ある程度の興味や理解がある生徒であれば、大会観戦による感動も大きかったかもしれないが、そうでない生徒にとっては選手やプレイのすごさは伝わりにくかったように思う。事前学習の1つとして、対象者全員でバスケットボールをするなど、障がい者スポーツの原型となる競技に関する理解は、事前にある程度深めさせておく必要があると感じた。</p>
9 来年度以降の実施予定	現段階では特になし